

ちょっと待って図書館移転!

連絡会ニュース第4号

2022年2月16日発行

ちょっと待って図書館移転連絡会こまえ

連絡先(周東) 090(9012)0654

mshuto2612@kym.biglobe.ne.jp

狭い駄倉への新図書館移転ではなく 市民の願う図書館・公民館を!

市民の皆さん、現在、市役所敷地内にある市民センターに公民館とともに中央図書館があることはご存じと思います。市民センターの改修を機に、駄倉地区にある商工会館と駄倉地区センターを取り壊し、そこに中央図書館を新築・移転する計画をご存じですか。

中央図書館はあまりに狭く、蔵書数も他市に比べて圧倒的に少ないことから、改善して欲しいと市民は長い間に渡って運動してきました。2016年には「市民センターを考える市民の会」が市と協働で、1年かけて“人がつ

ながる公民館、暮らしを豊かにする図書館”を謳う「市民提案書」を提出。市はそれを尊重するとして、市民団体の提案も受けながら、増・改築の方法を業者に委託して検討し、2020年3月にはそれを基に市民センターの増改築について市民アンケートを実施。新築を含む増改築を望む声が6割を超えました。

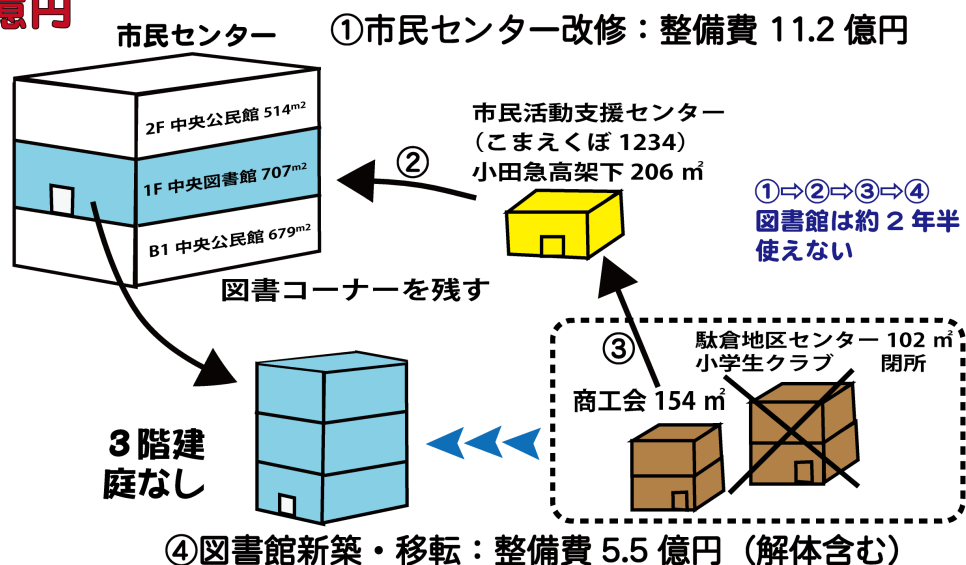
ところが市はアンケートで提示されなかった案を基本方針として一方的に策定、昨年7月からは「市民センター改修」「新図書館構想」のワークショップを開始、並行して「新図書

市が決定した市民センター改修等基本方針より

総経費 16.7 億円

現中央図書館
1,310 m²
共用部分を除く
専有面積
707 m²

駄倉新図書館
1,100 m²
共用部分を除く
専有面積
820 m²



館基本構想検討委員会」も開催しています。

当初の予定では、4月にはワークショップで基本構想をまとめて5月に市民説明会とパブリックコメント、「新図書館基本構想検討委員会」は5月に新図書館整備の基本構想をまとめることになっています。このあと市民センターの基本設計、実施設計が行われ、**来年の夏頃には市民センター改修工事**に入ることになっています。工事に入ってしまうと止めることは格段に難しくなります。市民センターはとりあえず必要な水・電気系、トイレ・

エアコンなどの改修はすぐに実施させたうえで、今年はこの無謀な駄倉新中央図書館計画をストップさせ、あらためて市民要求に基づく市民センターの増改築、希望ある公民館・図書館計画を市民協働で作り上げるために、声をあげましょう。

市民の皆さん、駄倉新図書館計画が私たちの希望するものでは全くないこと、それに17億円も掛けて良いのか話し合ってください。同封のチラシ・署名用紙を使って、そのことをまだ知らない市民に広げてください。

市民の声は生かされるのか？ 第3回ワークショップが開かれました。

12月12日（日）午前：市民センター改修ワークショップ、午後：新図書館ワークショップが開かれました。参加者はそれぞれ24名中17名、30名中13名でした。ワークショップは参加者の意見や状況に関わりなく、主催者が課題とスケジュールを一方的に決め、進行も第2回で参加者から強く批判されたにもかかわらず、“参加者は意見を出すだけで良い”との姿勢に変わりはありませんでした。

●市民センター改修ワークショップ

時間を繰り上げて開会され、前回参加者の議論から決定された「新しい市民センターに求めるもの」というテーマで、2分という制約で全参加者が意見を述べましたが、時間オーバーを理由に、意見交換や質疑応答は行われませんでした。市が予定したテーマ「新しい市民センターに必要な設備・機能を考えよう！」で相変わらずグループ毎に、ポストイットに各自の意見を書き出し、多少の説明を加える程度でした。市民センターに必要な機能に即して議論されることは無く、今回は「部屋の面積・配置」（予定）とは、市民の声を生かして、良いものを作ろうという気はないのでしょうか思えません。

終了後、次回に向けて参加者から“議論をさせない運営の仕方と一方的な課題設定を改めるよう”提案書が出されましたが、採用されず、次回開催時にワークショップ参加者に提案書の配布を求めています（次ページ参照）。第4回は1月23日（日）に予定されていましたが、感染拡大のために延期されています。

●新図書館ワークショップ

参加者が前回からさらに13名に減少、ついに全体30名の半数を割りました。これまで全体の場で新館批判を正面から発言すると、狛江市へのご意見は別の場でと棚上げされ、グループワークでポストイット書きが粛々と進められてきました。その結果、一人の参加者が「基本方針」固執にたまりかね、辞任を表明しましたが、市は平然として説得の気配も見せませんでした。

今回の課題は「図書館・図書室等それぞれの役割を考えよう！」でしたが、駄倉新図書館は市民要求を満たすのかという核心は議論されず、市民センターに残す図書コーナーの「アイデア」を出すことに終始しました。参加者からは“図書コーナーには本は置かず、予約受取りコーナー、案内カウンター、学習室、コワーキングスペース”等の意見が大勢を占めました。

並行して進む新図書館基本構想検討委員会（2回目11/29）では、「どこに住んでいても均しいサービスを受けられるように図書館、図書室の特色化は慎重に」とまとめられました。

第4回ワークショップに向けて、参加者の西尾さん、周東さん連名で、全参加者に配布するよう市に依頼した提案書（要旨）

市民センター改修ワークショップの議論する課題についての提案

以下の趣旨の提案を12月27日に政策室長、公民館長あてに提出しましたが、1月12日の打ち合わせでワークショップは「基本方針」の枠内で議論していただきたいとの理由で、採用されませんでした。しかし、今回の市民センター問題（公民館・図書館）はこれまでの市民の最低限の要求（例えば図書館でいえばスペースが狭い、蔵書を増やして欲しい）が満たされるのか否か不明であり、ワークショップではその検証を含めて議論されるのは当然のことだと考えます。（中略）17億円掛ける事業にこれまで市民が望んできたことが反映されないなど、有ってはならない事であり、ワークショップ参加者の責任でもあります。そうした立場から以下に議論の方法と、（中略）議論すべき課題を提案しますので、ぜひご検討いただきたいと思います。

I ワークショップの運営に関して

議論を中心に、合意を得る努力と合意できない場合はその意見の相違の根拠を明らかにして、市民に検討しやすい問題提起とする。

理由：これまで、各個人がポストイットにその時の課題に応じた意見を書くこと、その説明にほとんどの時間が費やされ、議論できる機会がありません。このようなワークショップは（中略）第2回ワークショップで批判されたように、…全体であれ、グループであれ、本来、どのような課題について話し合うのか議論し、議論した結果（合意があればそれを、合意に至らない場合は主張の相違とその背景等）を共有すべきであると考えます。

II 議論が必要な課題

1. 狭い、蔵書数が少ないという市民の声を、新図書館はどのように満たし、滞在型図書館とすることができるのか？（理由略）
2. これからの公民館に必要と思われることは何か？（項目のみ）
 - （1）すべての市民に開かれた憩いの場、つながる場としてのコミュニティスペース
 - （2）人がつながる公民館として、①開かれた事務室 ②公民館事業、団体活動に使われる空間（設備の充実・会議室増等）③青少年の活動を支援するために、等々。
 - （3）災害時避難場所としての機能 （4）気候危機対応施設
3. 市民活動支援センターを公民館と同居させる意味はあるのか？
4. 市民協働は生かされているのか？

今どうなっているの？ 図書館利用者にもっと情報を！

市民センター改修等基本方針で最も大きな影響を被るのが図書館利用者。方針により今進んでいるワークショップと新図書館構想委員会について、図書館内には、「新図書館が検討されています」の掲示の下、図書館だよりとワークショップでの意見を少し載せたお知らせだけが置かれている。これではどんな検討がされているのか分からない。市民の理解を喚起するために図書館はできる限りの情報提供方法（例：各回のホームページ情報を紙に印刷し見てもらう等）を講じて欲しい。図書館利用者こそ、より良い図書館を願う当事者です。大切な図書館利用者への報告こそ図書館の役割ではないでしょうか。（F）

文化のまち ともにつくろう！～公共図書館について考える～

広木 澄子

私は今、絵本の魅力にはまっているが、コロナ禍で読書時間も増え、図書館利用が多くなった。近くの岩戸地域センターの図書室によく行く。狭いけれど、子どもの姿を見るのも楽しいし大人の本にも出会える。予約本の取寄せや、どこの図書館(室)でも返却できる便利さがとても気に入っている。

しかし昨年 11 月の市広報一面の大見出し「市民センターを改修し、新図書館を新たに整備します」を見て驚いた。その内容は、市民の会による「市民センター増改築に関する市民提案書」を全く尊重していない。この方針は誰がどこで決めたのかもはっきりしない。

それ以来、今まで見聞した図書館を思い出しながら、“公共図書館とは？”を、考えるようになった。

思い出すのひとつは、神戸在住の時に訪れた淡路島の洲本市立図書館。ここは赤レンガ造りの広々としたスペースに子どもも大人もゆったりと読書を楽しんでいた。レンガ造りは昔、洲本が紡績工場の町だったのでその工場の一部を残したもののこと。歴史的建物を残したいという地元住民の強い願いから実現し、市民から愛される図書館になっているという。



洲本市立図書館

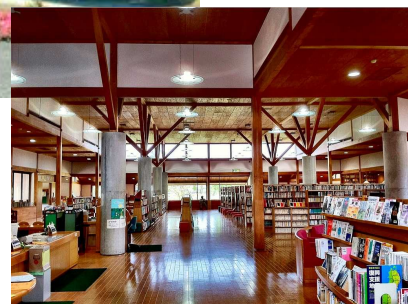
もう一つは、諫早市の図書館。人口 13 万人余に3館1分館3分室と移動図書館(バスで巡回)をもつ。3館のひとつ森山図書館は忘れられない。素敵な木造平屋建てで蔵書も多く子どもも大人も沢山の利用があった。

他の館は、残念ながら見る機会がなかったので、旧友に聞くと、誇らしげに曰く「中心館としての諫早図書館は、建設基本計画から市民の声が尊重された。建設後には文化団体で構成される『図書館利用団体連絡協議会』が市民の手で作られ定例会では情報交換をし、図書館が市民にとってよりよい施設になるように話し合っている。また、その会は開館の誕生日に毎年、子どもも大人も参加する図書館フェスティバルを開いている。」と。

私たちが粕江市歌「水と緑のまち」にある♪明日を拓く文化のまち ともに求めつくろう・・・♪を合言葉に、市民と専門家、行政が力合わせて、建設計画から創っていきたいと思う。市民から長く愛され育てられていく図書館となっていくために。

＊日本図書館協会の次のサイトは参考になりました。[公立図書館の任務と目標 \(jla.or.jp\)](http://jla.or.jp)

(粕江年金者の会会報 2021 年 4 月号からの転載)



諫早市森山図書館

拝啓 松原 俊雄 市長 様

国の方針がふれまくりで不確かななか3回目のワクチン接種についての取り組みご苦労様でございます。成果が現れることを期待しています。

一方、新図書館・市民センター問題についてはどうしても理解しがたく心配で、申し述べさせていただきます。

この間何度かワークショップが開かれています。回を重ねるごとに混迷は深まっています。いかにも市民参加らしい体裁をとりながら実態は民間業者のノウハウばかりが先行して実質的な市民の意見を集約することにはなっていないようで、しかもその集約の報告があまりにも恣意的なもので参加者やそれを知った市民の不信を募らせています。

根本は市のプランの制定にいたるいきさつが不透明で、それまで関わってきた人たちや市民に対してまともな説明がないままに事が運ばれていることにあります。そしてそのプランの実現のためのアリバイ作りに利用されているのではないかという不信感があると思われます。これでは真の市民参加とは言えません。

このまま強行して市のプランを追認させ

るような結論を導き出してしまうようなことがあっては市政の将来に大きな禍根を残すことになります。ここは一旦作業を停止して、市のプランの制定のいきさつを市民に対して明らかにして、一から市民の意見を求めてより納得の出来る案を作り出すべきではないでしょうか。大きな予算を使って市民に納得されない施設を後世に残すのは本当にもったいないことです。

「ちょっと待って」という市民の声を集めた署名も進められているのはお目にとまっていることと思います。その署名用紙の回収ポストには泉龍寺さんをはじめ多くの方がご協力くださるなど市民の中に共感が広がっています。

これらの市民の気持ちを無視して今の動きを強行しては市政に対する失望感を強めてしまうことにならないかととても心配です。真の「市民参加と市民協働」を願って条例まで作った初心を思い起こしていただき、立ち止まってのご再考を心から期待いたします。ともに条例を作った仲間としての心からのお願いです。

敬具

和田 哲子

新図書館のワークショップに参加して

平井 誠一郎

私は新図書館のワークショップに参加し、市民センターのワークショップを傍聴している。直近のワークショップはコロナ禍の中で延期されているが、、、。

ワークショップでは、狛江市が提示する基本方針という枠からは外れないで、意見を言って下さいという事なのだが、これが難しい事なのだ。私は基本方針に則って新図書館を建設し、市民セ

ンターを改修したとしても真つ当な物はできないと考えている。今のままでは市民が望むゆつたりとして使い勝手がよく、その施設にふさわしい機能を兼ね備えた物にはならない。

ワークショップでは色々な意見を言う方がいる。狛江市は面積が日本の中で2番目に狭い市なので、本のない図書館というものも考える必要あると言った方がいた。それに対して、請負業者の人

間が、そうした前向きな意見を出していただくと私たちも仕事がやり易くなると言ったのだ。それを聞いて、私は唖然とした。

別の回のワークショップでは、本が少ないとか狭いとか文句を言わないで、狛江市にふさわしい図書館を建てれば良いと言った方がいた。それを聞いて私は、内容の伴った本がどの分野にも必要最低限の冊数は置いてあり、人がくつろいで本を読める図書館が真つ当な物ではないのかと考えた。

市の計画通りに事が進めば、16億7千万円の総経費をドブに捨てるようなものだ。狛江市くらいの規模の自治体だとこれは大した金額になるのだそうである。新図書館の建設と市民センターの改修について何も知らない市民の方々は、自分の頭で良く考えて欲しい。



委託業者による2つのワークショップ・新図書館整備構想委員会 進行風景 傍聴記

市は取り纏めを共同事業体TOT（シアターワークショップ・岡田新一設計事務所・図書館総合研究所）へ委託しました。

ワークショップ会場…その日の出席数に応じ4～6人に分けた机席、前方に司会業者と政策室・公民館や図書館長等、後方に傍聴市民と委託会社員。業者は司会進行やレジュメ・市民向けに毎回報せるA4かわら版・他資料作成、グループワーク時は参加者へ助言。

こんな情景も…初回から、あくまで改修等基本方針の枠内で進めていただきます・市への意見は別の所へ、と毎度封印／発言中の市民の真ん前迄、市の管理職が接近、2度あり。発言中止を迫ったように見え、怖かった。／意見を深めるためのより多人数での意見交換の時間は与えない／本を置かない電子書籍だけの図書館、との参加者発言に司会業者は「前向きな意見をいただいたので我々も仕事がし易くなります」と／市と業者が編集するかわら版には「基本方針」に沿った意見を選んだり文意を変えて掲載。

ワークショップを踏まえ**新図書館構想を策定する委員会会場**…机は口の字配置、一辺に図書館事務局と業者4人ほど。委員は公募市民6、学識経験者1、図書館協議会1、幼児・保育2、校長会1、教育部長。業者は資料、特に規模の考え方への情報提供等、委員からの質問にも回答。

情景…委員に公立図書館の専門家はいない。この会の専門家は委託業者と見做しているように思えた。／図書館作成資料に面積不足・蔵書収容能力限界とある。が、蔵書は全国同規模70市と比べれば、その平均の81%だから低くない、と図書館員が回答。これは多摩26市中最低位の現状で良いということか？／初回から「基本方針」があくまで基本、と教育部長と事務局が牽制。こんな風に見えました。

小川 泰子

子ども図書室をどこに??

絵本の魅力を感じている私は、中央図書館や地域センターによく通っている。狭いながらも大人に混じって、子どもに出会うことが多い。好奇心をもって本を探したり、お母さんと会話する子ども達を見ると、普段子どもと接することの少ない私にとっては、心がほっこりする時間だ。逆に子ども達から見ると、読書する大人達に刺激を受けているのではないだろうか。核家族化や疎遠になりがちな今の地域社会にあって、こうした出会いの場が、地域に求められていると思う。

そんなとき、声高に聞こえてくる「市民センターに子ども図書を中心とした図書館機能を!」のメッセージに違和感を覚える。子どもの本が充実する子ども図書室を否定しないし、関心も多いに



あるが、今はまず、その独立スペースは、中央館（中央図書館）の中にあってほしいと考えるからだ。

勿論子どもの近場にある地域館（地域センター）には子どもの図書は必要不可欠だ。

文化芸術を通じた地域の異年齢交流の場として公共図書館の役割は、とても大きいと思う。子どもの本はシンプルな表現の中に内容深く芸術性豊かなものが多く、最近特に大人にも人気が高まっている。また子どもも成長するに従い、大人の本にも関心が向いてくる。

従って子ども図書独立スペースを中央館から離れたところにもつと、不便を感じることも多くなり異年齢の出会いも減るのではなかろうか。

以前の市民アンケートの問いにあった「財政面、施設面の理由で蔵書やスペースに制約が生じるときどうする?」と関連ありそうな「中央館とは別のところに子ども図書室を!」という発想ではなく、公共図書館の原点を見すえた以前の市民提案書に立ち返って、専門家の意見も大事にしながら文化の街狛江にふさわしい新図書館方針を市と市民が協力して創り上げられたらと切に願う。

(S.H)

中央図書館の分割・移転に反対です

私は主に中央図書館を利用しています。新刊書の場合は、入手するまで相当の時間がかかることはあっても、自分がこれまでに頼んだ本で借りることができなかったものは1冊もありませんでした。狛江の図書館の蔵書が少ないと言われますが、狛江の図書館になれば三多摩の他市や東京都の他区の図書館から取り寄せてもらえますので、それはあまり問題ではありません。蔵書規模は大きければそれに越したことはありませんが、私のこれまでの経験から言えば、他市・他区の図書館との連携がスムーズであればさほど大きな問題ではないと思います。

私は中央図書館を分割・移転するという市の

須貝 光典.

「基本方針」には納得できません。なぜなら、市民センターを考える市民の会が提出した木造縦増築の提案によれば、現在の場所で、床面積が1.7倍にもなる市民センター(公民館・図書館)を作ることができるという提案があるからです。そのような増改築の可能性があるのに、公民館と図書館をわざわざ分割してしまい、図書館の床面積は1割くらいしか増やせず、3階建てにして移動を難しくしてしまうのは問題だと思います。

とにかく、市民合意のない「狛江市民センター改修等基本計画」を一旦白紙に戻し、より使いやすい市民センターを市民との協働で作って欲しいと思います。

「新図書館」「新公民館」について

相馬 光子

市民の文化活動の拠点である図書館や公民館の建て替え案が、市の「基本方針」では“明”のイメージどころか、むしろ“暗”のイメージがつきまとう。

利用者である市民の多くが望んできたことは、図書館であれば、概して落ち着いてゆったりとした空間、並行して蔵書の内容充実、蔵書数の増加などなどであろう。

ところが、市の計画では真逆としか思えないような、無理やり窮屈な空間へと押し込める印象が否めない。

思うことは、まずそもそもは議会のある所に図書館なくしていいのだろうか、という思いである。行政や議員の方々にも伺いたい。無論、今やそのような時代ではない、より広いスペースを求めて行政地区の中心部から離れた場所へと移転している地区は多い、という声も聞こえそう。

確かに、そのようなケースは少なくない。しかしその結果は、便の悪さから利用者数が目に見えて減少し、やがては遂に中心部への再建の例もある。

公民館にして然りである。利用者団体の数々は、必ずしも希望する活動室の予約が取れるわけではない。ために、別所の空室を探すも、それも条件が整わず、結局はその日の会合を流さざるを得ないなどの苦労が多かった。最悪のケースは、十分な活動が不可能なため、やむをえずグループの解散をしたという実態も耳にしたことがある。

従って、利用者たちの多くは公民館の部屋の増設を強く望んできた。にも拘らず、その1番の希望すら退けられている。

市民活動の縮小は、市民力のバックアップどころか、市民力の低下にもつながりかねない。ということは、市は市の貴重な財産であり、基盤であるものをないがしろにしてはしないかという疑問が湧く。形として見えるものばかりではない貴重な基盤は何かという問いを、皆でもっと胸に留めてみたい。

折込みチラシ作成募金のお願い

ちょっと待って図書館移転連絡会では、署名活動を進めるために新しいチラシを作成、狛江市内の新聞4紙に折込みを行います。そのための費用のカンパをお願いしています。ご協力お願いいたします。

ご賛同いただける方は、お近くの事務局メンバーにお渡しいただくか、連絡会の会計担当：重国の下記口座にお振込みいただければ幸いです。振込手数料はご負担ください。

楽天銀行 ポルカ支店 普通 1069853 シゲクニ タケシ

口座へのお振り込みをいただいた場合、お手数ですが、下記メールへご一報いただけると幸いです。

mshuto2612@kym.biglobe.ne.jp

ちょっと待って図書館移転連絡会こまえ 連絡先

周東三和子 中和泉2-6-12 090-9012-0654 mshuto2612@kym.biglobe.ne.jp

西尾 真人 和泉本町3-35-8 03-3480-7477 manishio@jcom.zaq.ne.jp

林 健彦 岩戸北2-8-1 080-3208-2074 kenyupd6@yahoo.ne.jp